



カンボジアの子どもたちに教科書を

2014年9月 No. 50

カンボジア便り

市井秀治

～目次～

カンボジア便り

新年度も教科書支援 1～2

ボランティアさんの感想 3～5

事務報告 6

新年度も教科書の支援を続けます

2013/2014 年度が終わり、カンボジアでは新年度を前に夏休み期間に入っています。今年は表の通り最終的に 93% の子どもが進級できましたが、この数字は昨年とほぼ同じ水準です。教科書支援によって数字で見えて取れる成果が出てこないのが残念ですが、現地からの感謝の声に応え、新年度も教科書支援を続けていきます。

2012/2013年度						2013/2014年度					
	子供数	進級	留年	退学	進級率		子供数	進級	留年	退学	進級率
1 Preysar	383	352	24	7	92%	1 Preysar	342	300	24	18	88%
2 Rakarkoh	210	196	14	0	93%	2 Rakarkoh	228	214	14	0	94%
3 Trapaingsala	697	654	40	3	94%	3 Trapaingsala	809	763	46	0	94%
4 Preyveng	345	318	26	1	92%	4 Preyveng	332	310	18	4	93%
5 Toul Sambo	468	435	26	7	93%	5 Toul Sambo	426	397	27	2	93%
6 Kraingpongro	281	269	9	3	96%	6 Kraingpongro	319	294	23	2	92%
7 Saksampov	121	113	7	1	93%	7 Saksampov	122	112	8	2	92%
8 Watkdol	137	124	8	5	91%	8 Watkdol	121	111	10	0	92%
9 Prekchrey	195	185	10	0	95%	9 Prekchrey	201	190	11	0	95%
10 ルセイサン	261	243	16	2	93%	10 ルセイサン	239	224	13	2	94%
11 ワットハー	267	248	19	0	93%	11 ワットハー	280	253	27	0	90%
	3,365	3,137	199	29	93%		3,419	3,168	221	30	93%

教科書支援を始めた当初は、教科書をしっかりと管理して翌年以降も使えるようにするという現地の人の意識が乏しく、紛失や毀損の数が多くありました。しかし支援を続けるうちに、先生等の意識が高まり、今では子ども達にも教科書を大事に使うよう指導がされています。それでも、教科書の中身が改定されたり、新しい科目が追加（例えば、今年から4年生に英語の授業が新設されました）されると、新しい教科書の購入が必要になります。今年は支援している 11 校で合計 3,911 人の子ども向けに、4,316 冊の教科書を支援する予定です。

	生徒数	クメール語 (国語)	算数	生物・社会	社会	生物	英語	全教科書数
1年生	723	280	262	220				762
2年生	1,163	285	232	215				732
3年生	564	240	176	156				572
4年生	532	193	162		158	164	277	954
5年生	480	190	173		149	150		662
6年生	449	190	143		152	149		634
	3,911	1,378	1,148	591	459	463	277	4,316

井戸用のポンプとコピー機の支援にも感謝の声が届いています

Swedish Lifestyle 様のご寄付で支援したポンプを使った井戸の設置ですが、作業が遅れていた最後の小学校でも設置が終了しました。また、先生方の強い要望から支援を行ったコピー機に関しても、先生方の業務の効率化に大変役立っていると感謝の声が届いています。



遠くから水を運ばなくてもすみます



これ1台でも学校業務がはかどります

識字学校でも子ども達が元気に学んでいます

現在、正規の学校は夏休み中ですが、識字学校では2つのクラスでそれぞれ15人ほどの子ども達が一生懸命学んでいます。写真から縄跳びをしてみんなで楽しそうに遊ぶ姿と、元気に授業を受けている姿が見て取れます。



縄跳びに興じる子ども達



識字学校は夏休み中も勉強です

ボランティアさんの感想

また参加したくなった初めてのボランティア

中学1年

土田花采

私は6月1日に初めてボランティアに参加させていただきました。

ボランティアをはじめたいと思ったきっかけは、小学校を卒業して6年間毎日使ったランドセルをどうしようかと母と話したのがきっかけです。母が私にアフガニスタンの子供たちに使ってもらうランドセルを募集しているんだけど送ってみたい？と提案してくれました。私もそうやって使ってもらえたらと思って送ることにしました。

世界のことにとても興味があり、他の国の文化や食べ物などを調べたりしていましたが、学校生活なども日本との違いが気になるようになりました。私の姉が通っていた日韓アジア基金のボランティア活動が、寄付をしてくれた方たちにお手紙を書いたり郵送のお手伝いをしたりする仕事で、中学生から参加できるよと聞いて今回参加しました。

当日は手紙の書き方や、どういう順番で紙を入れていくかなど色々な体験をさせていただきました。スタッフの方や一緒に活動させてもらった人たちにも親切にしてもらい、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

カンボジアの小学校の現状を知ったことで、自分がどれほど恵まれた環境なのかがわかり、この活動があるときには、またお手伝いができたらと思います。



わき目も振らず支援者に手紙を書いています

ボランティアを通して得たこと

～ニュースレター発送のボランティアに参加して～

大学生 匿名

今回、私は、人生で初めてボランティア活動に参加しました。今までボランティアに参加してみたいなと思う気持ちはありました。しかし新しいことに挑戦する勇気が出なかったのです。私の周りではボランティアに積極的に参加している友達が大勢います。一緒に参加しようと思いましたが、結局尻込みをしてしまいできませんでした。いつまでも消極的ではだめだと思い、今回のボランティアを見つけ、参加しようと決意したのです。正直不安でいっぱいでした。人見知りの私でも皆となじめるのかと会場に向かう途中ずっと考えていました。

しかしそんな不安は会場に着いた途端消えていきました。きっと入った瞬間にスタッフの方々の明るい笑顔を見ることができ、元気で優しい声の挨拶を聞いたからだと思います。今回の活動は、宛先のシールを貼ったり、支援者にちょっとした手紙を書いたりという誰にでもできる簡単な作業でした。手紙は何度も書き間違えて、その都度修正液で直しました。自分の書いた手紙が支援者の方々に届くのだと思うと、もっと丁寧に書かなきゃ！文字はこのくらいの大きさと読めるかな？など読む立場のことを考えながら書くようになっていました。



私は改めてもっときれいな字で書けたらなと思いました。作業中ちょっとしたハプニングも起きました。その時の参加者全員の団結力は素晴らしかったです。そして、作業を通じて沢山の方々と交流を深めることができました。私と同じ大学生や短大生、社会人、韓国の方も参加していました。作業をしながら色々な話のできたので、時間が経つのがとても早く感じました。

丁寧に丁寧に

当会は、カンボジアで子供たちの教育支援を行っています。今回の活動はニュースレター発送という作業だけでしたので、小石くらいちっぽけなことだったかもしれません。しかし今回の活動を通して、カンボジアの子供たちの状況を知ることができ、自分を成長させることができたと思います。これを機に、勇気を出して様々なことに挑戦したいと思います。また機会があったら当会の活動に参加したいです。

いつまでも続いてほしいビビンの会

社会人 キム ドウヒョン

来日してから4年目になる韓国人でございます。初めてこの会に参加したのは日本に来て間もない頃でした。あっちこちの交流会に行っても単に「飲み会」で終わってしまうところが多かったのですが、ビビンの会はそういう交流会とは違ったので本当にいい印象でした。その後中々時間が合わず、やっと今回スタッフとして参加させていただきました。

簡単な流れの打ち合わせの後、お客さんを迎えるのスタート。前回はお客さんだった自分が今回はスタッフとしてお客さんを迎えるのがちょっと新鮮でもあり、緊張しました。6～7名くらいに分かれた各グループで自己紹介をして、ビビンの会の花でもあるグループでテ



ーマを決めて話し合った内容を発表する「ディスカッション」をしました。テーマがなかなか決まらず、最終的には韓国人と日本人が多かったので「韓国と

会が終わって満足感いっぱい、これからも繋がろう

日本の食べ物の違い」について話し合いました。みんなの意見を集めて整理するのはかなり難しい作業でした。そしてなんとか発表にこぎつけてディスカッションを終え、ビビンの会もお開きになりました。

普段は会えない色々な人達と短い時間でしたが、楽しい時間を過ごさせていただきました。僕は参加した回数は少ないのですが個人的にこの交流会にちょっとした愛着を持っています。最初に参加した時に親しくなった友だちとは今でも繋がり、自分の日本生活の1つの支えとなっています。外国人として日本に来たからには日本に触れ、日本人と友達になりたいと思う人は多いと思います。自分もその一人でいろんな交流会に通っていました。そしてここで出会った人達との距離が一番近くなりました。この交流会によく顔を出してくれる人たちやスタッフもここで出会い、縁をつなげてきたと思います。いろんな人が集まり、出会い、繋がるようなそんなビビンの会がいつまでも長く続くことを願っています。

国境を超えた出会いの中で

～ビビンの会・初めてのイベントリーダー～

大学3年 福島未来

友情は国境を越える。ビビンの会を通して深く感じたことは、まさにこれである。6月30日のビビンの会で、最年少ながらイベントリーダーとして司会をやらせていただいた。

今まで参加者だったのが今回はそれをまとめる役であり、とても良い機会となった。参加者のほとんどが社会人で自分より年上なので、上手くできるかは不安であったが、もう一人の司会者と協力し、楽しい会にすることができたのかなと思い、今ではすごく満足している。

参加者としての交流会はもちろん楽しく、いろんな方と会話をしながらお互いを理解しあえる点に魅力があるが、司会者はどうしても参加者の方と話す時間が少なくなり、触れ合う時間も少ない。しかし、司会者をやって良かったと思えたのは、会全体を見渡すことができ、参加者が楽しそうに交流を深めている場面を何度も目にすることができたからである。

ビビンの会のプログラムとして、ディスカッションがある。政治的な問題といったシリアスなものではなく、例えば日韓の恋愛観の違いのような楽しい話題を話し合うもので、会の中で一番盛り上がる時間となっている。今回も参加者全員が盛り上がり、司会者として各グループを見て回ると、互いの国の違いを发表しながらうなずいたり笑ったり時にはつつこみをいれていたり、



盛り上がるディスカッションの時間

とても楽しそうな様子であった。そのような場面を見ると、微笑ましいと思うと同時に、自分まで楽しくなるのである。こういうことがあるからこそ、会を開いて良かったと思うのだ。

最近では日韓、日中関係共に悪化していると報道されているが、そのような中でビビンの会が開かれ、多くの方が国境を越えて仲を深めている姿はとても眩しい。交流会には日韓、日中関係が冷え込んでいるというムードは一切ない。むしろ、そのような問題はないのではないかとこのほどに楽しい雰囲気である。あの光景を見ていると、日本、韓国、中国が友好的な関係を築ける日はすぐそこまで来ていると私は信じていることができる。このようなご時世だからこそ、積極的に日中韓の人々が集まり、互いを理解しようとする姿勢は大切なのだと思う。ビビンの会はそのための場であり、これからも国境を超えた友情を築く場として、みんなを楽しめる場にしていきたい。

グローバルフェスタジャパン2014出展のお知らせ

このイベントは、国際協力関係のものとしては国内最大規模で、NGO・被支援国大使館・青年海外協力隊OB会等が250のブースを出し、活動の広報を行います。
当会は、例年通りここに広報ブースを出展します。ご興味がおありの方は是非ご参加下さい。
当会ブースはO-21(オレンジゾーンの21番)です。

日時:10月4日(土)・5日(日) 10時～17時
場所:東京日比谷 日比谷公園

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

2014年6月1日 ニュースレター49号 発送作業

小川彩加・川村優太・後藤明子・小山 卓也・佐々木彩子・佐々木優真・山藤瑠子・白潟はるか・千葉 まゆみ・土田花菜・土田弓恵・星野 廣平・村木沙耶・盛岡奈緒美・山根 友紀子・李正賢・柳 明姫 (17名)

2014年6月28日 第20回ビビンの会運営スタッフ

新井 利延・李 ヒス・猪又 裕子・金 ドウヒョン・霧山 悠二・久保田 裕美・小森 新・ジョン サンオン・房 ヒョナ・福島 未来(10名)

2014年5月23日～2014年8月16日に会費・ご寄付を下さった方 敬称略・五十音順(別枠除く)

荒川 雄彦	小川 英	北川 節子	坂口 博	田村 洋平	八坂 涼子
井内 和夫	語ろう会	権 智娜	柴田 義之	塚本美和子	矢崎 芽生
内尾亜津子	唐澤 一登	黒巢 香	田沢 雄二郎	松井ふみ子	山崎 杜子
江本 哲也	川崎由紀子	鯉沼 利夫	田中 節子	三品 徹	山沢 勲
大澤 龍	菊池 貞子	斉藤 乃章	田野辺 隆男	峯村 公雄	吉村 悦子

有限会社 信和ハウス 谷池 教子

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153
口座名 日韓アジア基金

- ・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。
 - ・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
- ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
Eメール: ilaf@iloveasia2.sakura.ne.jp
HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさってください。
発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也